

2019. 8. 11.

シックハウス（スクール）症候群、化学物質過敏症、電磁波過敏症などで
学校に行けない児童生徒の事例集へのご協力のお願い

環境ジャーナリスト

いのち環境ネットワーク

代表 加藤やすこ

voc-emf@mbn.nifty.com

いつもお世話になっています。当会ホームページや会報でも紹介していますように、化学物質過敏症と電磁波過敏症を発症し、定時制高校への進学を希望している中学生の男子と保護者（小林幸治さん、暁子さん）が、文部科学省へ要望書を送り、高等教育を受けられるよう対応を求めています。

文部科学省からは、化学物質過敏症や電磁波過敏症が原因で学校に行けない子どもについて「都道府県教育委員会で把握している事例は上がっていない」「文部科学省でも把握していない」という回答が届きました。

しかし、過敏症を発症して学校に行けない、または休みがちなお子さんや教職員は全国にいます。すでに、多くの方が学校や地元の教育委員会に相談・交渉をしていると思いますが、その情報は文部科学省に届いていないことがわかりました。

小林さんは、再度、文部科学省と交渉しますが、その際、学校に行けない子どもたちと教職員の情報を文科省に届けたいと考えています。

大変恐れ入りますが、みなさんの体験を8月25日までに、当会へお寄せいただけませんか？今、通学できないお子さんだけでなく、すでに成人したけれど、過去に就学・進学で支障が発生した方の情報もお待ちしています。また、過敏症で学校環境に問題があったけれども、交渉して学校環境が改善された事例もお送りください。

なお、お寄せいただいた方のお名前、ご住所、学校名は文科省にしか伝えません。ホームページ、会報、メディア等で全体的な結果を報告する際も、個人や地域、学校が特定されないよう配慮します。

また、学校または教育委員会との交渉がうまくいかず、問題が解決していない方については、文部科学省から学校または教育委員会に連絡を取るようお願いすることも考えています。文部科学省からの連絡で全て解決するとは限りませんが、監督官庁からの連絡によって、過敏症の子どもへの対応が改善したケースもあります。

過敏症でも学校に通えるよう、そして全ての子どもにとって安全な学校環境を作りましょう。そのためには、実際にどんな問題が起きているのかを文部科学省に伝え、政策に反映してもらう必要があります。どうぞご協力ください。よろしく申し上げます。

要望書：<https://www.ehs-mcs-jp.com/学校環境/>

関連記事：<http://www.kinyobi.co.jp/kinyobinews/2019/08/06/antenna-527/>

返信先： voc-emf@mbn.nifty.com （FAX011-613-1984）

*電話とFAXは共通ですが電磁波過敏症のため、電話連絡はご遠慮ください。

いのち環境ネットワーク (<https://www.ehs-mcs-jp.com>)

シックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁波過敏症で学校に行けない児童生徒の事例

1. 保護者のお名前	
2. ご住所	
3. 就学に問題が発生した年とお子さんの年齢（当時）	(西暦 20 年) 歳 / 男 ・ 女
4. 学校名	
5. 病名と発症時期	1. シックハウス（スクール）症候群（ 年） 2. 化学物質過敏症 （ 年） 3. 電磁波過敏症 （ 年） 4. その他（ / 年）
6. 現在または過去に起きた学校に関する問題を教えてください。また、相談した結果、学校環境が改善された場合は、具体的な対策を教えてください。 <u>例)「柔軟剤の匂いが原因で小学校2年生の頃から通学できない」、「学校無線 LAN が原因で休みがち」など、学校で起きている問題、通学できない状況を、できるだけ具体的に教えてください。書ききれない場合は別紙または裏面をお願いします。</u>	
7. 上記の問題を教育委員会、学校などに相談しましたか？またそれによって問題は解決しましたか？	1. はい（ 年頃） 2. いいえ 3. 解決した（ 年頃） 4. 解決していない
8. 「解決していない」場合、文科省から学校に連絡してほしいですか？	1. 文科省から学校または教育委員会に連絡してほしい 2. 連絡不要

